

山崎 そう。芦屋のまちで「人と人がつながれる」ことが重要で、そのために「つながり基盤づくり」が必要ですね。自分の人生を豊かにするために、何か面白い仲間とつながっていきける基盤をちゃんとつくっておくと、そこからいろんな活動が生まれることになります。

きっかけは教育でも子育てでも、エコなライフスタイルとかチャリティショップでもいい。住民やお店が行うワークショップや、行政の住民参加型事業の場を使ったりしてできるところからやればいい。行政の仕事はそうした市民が何かコトを起こせる場をたくさんつくること。それが市の最も価値のあるインフラになっていくと思います。

渡辺 住民も参画することで意識が変わります。気に入るテーマが見つけれなくてなかったら、自分でやり始めたらいい。何かをやっていると、必ず「面白そうだね」という人と出会えますから。他市で住民参加の活動をしている人に、「人口9万人くらいだと、人とつながりやすいし行政ともつながりやすい規模で羨ましい。」と言われたこともあります。

芦屋市 そうするためには、個人の生活を充実させるところからいろんな「つながり」をつくるということが大切ということですか？

山崎 そういことだと思います。

「一緒にやってみよう」ということを、高齢の方がやれば地域包括ケアになるかもしれないし、若い人たちであれば地域ブランディングのまちづくりになるかもしれない。両者がやれば地域共生社会と呼ばれるものになるのかもしれないですけど。

スマートフォンが出てきたことで、インターネットがより身近になり、日々の買い物でわざわざ三宮や梅田に出る頻度が減ってきている。大都市に人が集まること自体が幻想になってくるかもしれないですね。ただ、ネットでクリックすることで商品が届くだけではない物や場があることが重要な気がしますね。休日に、地元でダラダラ仲間と一緒にビールを飲んだり話ができたりするね(笑)

「つながり基盤」をつくるために、芦屋では市民と議会と行政の3者がそれぞれできることがあると感じます。行政は楽しそうだな、お洒落だなと感じる住民参加の場をどんどん作っていくのが仕事。議会にはつながり基盤を作るための新しいことを考えて情報やアイデアを出してもらいたい。市民はその中で「つながり」づくりの練習をして、どこにもないほど芦屋を面白くする。こんな構図ができればすごいことですよ。

市民参画協働アドバイザー

やまざき りょう
山崎 亮氏



studio-L代表 建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年に「studio-L」を設立。地域の課題を地域に住む人たち自らが解決するためのコミュニティデザインに携わる。慶応義塾大学特別招聘教授。博士(工学)。2018年4月芦屋市市民参画・協働アドバイザーに就任。

市民参画協働推進会議会長

わたなべ なおこ
渡辺 直子氏

フリーランスのエディター&ライター。地域活性化のプロジェクトにも多数関わり、2014年に「瀬戸内しまのわ2014」で、2018年に「あきた年の差フレンズ部」(いずれも市民活動の啓発プロジェクト)でグッドデザイン賞を受賞。平成29年度より芦屋市市民参画協働推進会議会長に就任。



芦屋まちデザインラボのゼミと

みんなで学び、考える、
芦屋のまちのこと。

MIYAZUKA♡PROJECTのワークショップを開催中！

今年度、あしや市民活動センターと旧宮塚町住宅をリノベーションします。それぞれの施設を「どのように活用できるか」「自分たちは何をやるのか」といったことを検討する市民参加型のゼミ・ワークショップを開催しています。

あしや市民活動センター

「デザイン」をキーワードに、「芦屋まちデザインラボ」として、まちや暮らしに関わる活動を考えるゼミを開催しています。



芦屋まちデザインラボ(10月10日)

旧宮塚町住宅

「女性の活躍も含めた市民の活躍」を考える「MIYAZUKA♡PROJECT」のワークショップを開催しています。参加者それぞれの「活躍」とはどういったものかを考える取り組みです。



【旧宮塚町住宅の活用】市民ワークショップ(9月28日)



高田 奈津子さん

参加者の声

新しいチャレンジがしたいと思い参加しました。きっかけは、学童保育の問題を身近に感じたことで自分たちが望むものは、自らつくれば良いと思いました。昔のご近所付き合いのように、多世代が交流し、つながれる場をつくれたらと考えています。



ハウル白川 泉さん

参加者の声

今回のワークショップでは、参加者の皆さんとお知り合いになれたことが一番の刺激であり収穫でした。すばらしい企画に感謝しています。歴史的建造物を活用するという英断に応えられるよう、市民の皆さんと一緒に智恵を絞って素敵なプランにたどりつけたらと思っています。

それぞれの取り組みには、「何かをしたい」という想いを持つ皆さんにお集まりいただいています。ここから新たな取り組みが生まれてくるかもしれません。ゼミ・ワークショップの様子は、市ホームページやフェイスブックで公開していますので、ぜひご覧ください。



芦屋まちデザインラボ

検索



女性が輝くまち芦屋プロジェクト

検索